福島県立図書館「読書」と科学プロジェクト事業
ふくしまサイエンスぷらっとフォーム（spff）連携事業

今回のテーマ
『月と太陽①』

ふくしまサイエンスぷらっとフォーム(spff)
詳しくは　http://www.spff.jp/

このコーナーは、ふくしまサイエンスぷらっとフォーム（spff）会員の科学コラムと、福島県立図書館「こどものへや」担当者の子どもの本の紹介となっています。

【図書館・公民館図書室・学校図書館のみなさまへ】
こちらのコーナーは、館内掲示に限って、複写・切り取りをして利用することができます（点線に沿ってお切り下さい）
上記以外の目的でご利用されたい場合には、福島県立図書館・児童図書研究室までお問い合わせください。

冬は夜空が美しい。天文にはたいして興味のない私もついつい夜空を眺めてしまう。冬の夜空にはオリオン座と月が仲良く並ぶ。ギリシャ神話では弓の名手アルテミスが月の神と同一視されることがあり、オリオンとアルテミスの悲話を取り上げて冬の夜空に二つの天体が並ぶことを教えてくれる。

昨年の 12 月には月が地球の影に隠れる月食が話題になった。皆既月食の様子を見ていたら隣にオリオンがいて、しばし消えてしまった恋人を探しているかのようにも見えた。

地球からみた月の輝きはもちろん太陽光の反射によるものである。古（いにしえ）より人類は月と太陽の観測から様々な天体現象を探究してきた。2000 年以上も前には半月の月とその際の太陽と地球の位置関係から太陽はとてつもなく遠くにある天体であることは理解していた。かのダ・ヴィンチも固体と水の光の反射の違いから月の表面は水ではないことも突き止めていた。またガリレイは自作の望遠鏡で月を観測し、地球と同じように山や谷があることを知った。そして幾何学の計算により山の高さまで求めていた。ちなみに望遠鏡を使った観測から、木星にも地球の月と同様の「衛星」があることを、また金星にも月と同じく「満ち欠け」があることを見出していた。これらの事象は、もはや天界は神々の住む世界ではないことを示していた。

今年の５月には、金環日食が日本中の多くの場所で観測できる。そのとき多くの研究者が何を見つけ出すのか、また多くの人々はどんな感動を受けるのか今から楽しみである。（ｓｐｆｆコーディネーター　岡田　努／福島大学）

【このテーマに関する 子どもの本】

◆**「月のかがく」　えびな みつる／絵と文　渡部 潤一／監修　中西 昭雄／写真　旬報社　2011.5**
読み物としても面白く、鮮明な写真や図で、身近な天体「月」の魅力を科学的・天文学的に語ります。監修をしている国立天文台教授の渡部潤一氏は福島県出身です。小学校中学年から。

◆**「星の使者　ガリレオガリレイ」　ピーター・シス／文・絵　原田勝／訳　徳間書店　1997.11**
敬虔なキリスト教徒でありながら、地動説を唱え異端審問にかけられたガリレオ。その生涯を追う絵本です。地動説が認められる前の世界が描かれている**「天動説の絵本：てんがうごいていたころのはなし」（安野光雅／著　福音館書店　1979.8）**も併せて読むと、地球が回ると言った人々の苦心と覚悟がうかがえます。小学校高学年から。

◆**「天文学入門　星・銀河とわたしたち」（岩波ジュニア新書）　嶺重　慎・有本　淳一／編著　岩波書店　2005.7**
宇宙を知ることは、私たち自身を知ることという視点で、宇宙のできかたや進化を説明しています。ハッブル宇宙望遠鏡やすばる望遠鏡の美しい写真、ガリレオの望遠鏡などの図も多く、楽しく読める本です。中学生から。

県立美術館
五味太郎作品展［絵本の時間］
平成 24 年４月 14 日（土）～5 月 20 日（日）
代表的な絵本の原画約 180 点を中心に、五味太郎の世界を存分に楽しむ展覧会です。当館もおはなしかいを担当します。
★詳しくは　福島県立美術館　TEL 024-531-5511

【ご質問・情報はこちらへ　福島県立図書館・児童図書研究室】
〒960-8003　福島市森合字西養山1番地
TEL 024-535-3218　FAX 024-536-4787